

平成 27 年 10 月 13 日

お取引先様各位

アグリシステム株式会社

ホクシン製品の復活について
～実需に応える生産と流通～

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度弊社主要製品であります「スム・レラ T70」につきまして使用しております品種「きたほなみ」を「ホクシン」に置き換えることとなりました。

(※スム・レラ T70 については当初使用されていたホクシンに戻すという形)

背景としましては、ホクシンからきたほなみへの品種改良及び平成 24 年からの本格的な作付け切り替えにより、市場からホクシンは消え、ホクシンを使用していた製品は全国的にきたほなみへと変更されていきました。きたほなみは生産効率（収穫量・病害耐性など）もよく、安定供給を実現し、国産小麦のパン作りに新たな可能性を示しました。しかし一方で実需であるベーカリーの皆様からは、失ったホクシンの要望が次第に強くなっていきました。「ホクシンには世界に類のない香りと味がある」「独特の穀物の香りがよい」「きたほなみにはない力強い味と風味」などの声より、弊社としましても「ホクシン」の復活生産に可能性を感じました。

アグリシステムは直接生産者と契約栽培を行っており、実需の声を直に伝えることができます。また取り組みとして、年間数十名のベーカリーシェフが生産地まで足を運ばれ、直接生産者をつなぎ、対話をし、お互いの声を伝えていただいております。その結果、国から要望される品種を作るだけでなく、実需の声に応える生産を行っていかうとする 8 名の有志(生産者)が今回のホクシン作付けの復活に協力していただきました。そして今年の“とち小小麦ヌーヴォー2015”よりホクシンの復活を遂げ、予想していた以上のご好評をいただき、ホクシンの可能性を確信いたしました。また大変興味深かったご意見の中で“ホクシン”を使用したことで、その良さを感じたと同時に、あらためて“きたほなみ”の良さを認識することができた」という声でした。単に旧品種だけを良しとするのではなく、旧品種と新品種のそれぞれの特性と多様性を活かしたパン作りによってさらなる国産小麦の可能性が広がっています。

今後もベーカリーの皆様の声に生産者と共に真摯に耳を傾け、実需の要望に沿った、実需と結びついた生産と製造流通を確立していきたいと思っております。また生産地の声や情報も同時に、実需の皆様や消費地に向けて積極的にお伝えしていきたいと思っております。今後とも変わらぬご愛顧のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具